

今日もたべた？



本ごはん

めざせ目標冊数！



とうごうしょうがっこう 東郷小学校 とうしょかん 図書館だより へいせい ねん 平成28年 がつごう 7月号

つゆ あ ま ころ

梅雨明けが待たれる頃

梅雨明けが近づくと、日差しもだんだん強くなり、本格的な夏がやってきます。セミ

の鳴き声も聞こえはじめる頃ですね。7月7日は七夕ですが、二十四節気の“小暑”。

この日から“暑中”となり、暑中見舞いが出せます。もうすぐ待ちに待った夏休み。

長い夏休みは“読書”のチャンスです。いつもは読めないような長い物語や、ちょっと

むずかしい本に挑戦してみてくださいね。「今月のいいね！」は、戦争の本を特集しま

す。ぜひ家族で読んでみてください。



* 7月1日* 童謡の日・童話の日

1918年(大正7年)のこの日、童話と童謡を創作する最初の文学運動として、鈴木三重吉が児童雑誌『赤い鳥』を創刊しました。

このことにちなんで、日本童謡協会が、1984年に制定した記念日です。

今も子どもたちに親しまれている童話—新美南吉の「ごんぎつね」や芥川龍之介の「蜘蛛の糸」、童謡—西条八十の「かなりや」、北原白秋の「ゆりかごのうた」などの作品が掲載されました。

※ 7月13日は、移動図書です。借りた本は忘れずに返本しましょう。



7月の詩

うた

なみだのちにじし

あおぞらよしあき

いつも なみだはみせないほくです
はればれと あおいむねをはって
あおぞらを ささえていきます
でも とぎとぎ

とても さびしくなる
どんなに さびしいかという
とでかすぎて

はかれないくらいです

そんなとき ポケットから
あまぐものハンカチを とりだして
いっばい なきます

しくしく...しとしと...ぎやぎやあざあざあ！

そのあとは すっかりからり

おおぞらに にじをかけて

あつはつはつと わらいます

すると みんな

そらをみあげて ほっとします

工藤直子

『のはらうた』より

※ 夏休み前の返却・貸出について

貸出し 7月4日(月)まで

返却 7月6日(水) ~ 13日(水)まで ※ この期間中に全員、本を返します。本を借りることはできません。

夏休み前の貸出日... 7月・14・15・20日 ※ ひとり「5さつ」まで 貸出

夏休みまでの図書室お休みの日：毎週火曜日と8日

7月20日(終業式) 8月1日・19日(出校日)は、下校時間までに借りましょう。》

※ 夏休みの開館日のお知らせ

7月・21日(木)、22日(金) 貸出時間 10:30~12:00 と 1:30~4:00

8月・25日(木)は、午前中のみ(10:30~12:00)

☆ 図書室に行くときには、交通安全に注意し、図書本をなくさないように、図書バッグで持ってきてきましょう。



7月 今月のいいね!

し 知ってほしい にほん 日本であった せんそう 戦争のこと。

～ 今月は戦争に関する本を集めました ～



『おかあさんの木』

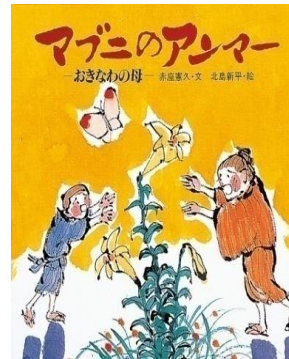
大川悦生 作/箕田源二郎 絵/ポプラ社

7人のむすこたちがへいたいにとられるたんびに、おかあさんは、うらのあきちへ、キリの木のなえを1ぼんずつうえたー。
東京大空襲、広島島の原爆、シベリアの抑留、玉砕の島など、戦争が人々の心をどのようにひきまわしていたかが語られている、表題作ほか7編を収録。

『新版 ガラスのうさぎ』

高木敏子 作/武部本一郎 画/金の星社

1945年3月10日の東京大空襲で、12歳の敏子は母と二人の妹を失った。焼け跡には、敏子の家にあったガラスのうさぎが、変わりてはた姿でころがっていた。うさぎは、燃えさかる炎に身を焼かれながらも、戦争の悲惨さを見つめ続けていたのだ……。
実際の戦争体験に基づいて綴った名作。



『マブニのアンマー おきなわの母』

赤座憲久 文/北島新平 絵/ほるぷ出版

ひとり息子をおきなわで亡くした母マツは、息子の骨をさがして沖縄本島の丘マブニに何年も通いつけた。その間に、戦いで亡くなったいろんな骨が無念の思いを伝える。息子の骨に再会できた時、マツは……。1985年刊の新版。



『ヒロシマの歌』

今西祐行 作/遠藤てるよ 画/岩崎書店

被爆直後、赤ちゃんを助けた著者の、平和への願いをこめておくる珠玉の童話集。
広島市の被爆直後の練兵場の光景を描いた表題作「ヒロシマの歌」や「ハコちゃん」など、8編を収録。戦争の悲劇や差別問題をテーマにした物語。



『禎子の千羽鶴』

佐々木雅弘 著/学研

1945年、広島市に投下された原爆によって被爆し、10年後に原爆症を発症。12歳で亡くなるまで、弱音を吐くこともなく、周囲の人を思いやりながら千羽鶴を折り続けた、佐々木禎子さんの真実の物語を、実の兄が綴る。

『パンプキン! 模擬原爆の夏』

令文ヒロ子 作/宮尾和孝 絵/講談社



わたしたちの町が、原爆投下の練習台に!?
身近にあっても見過ごしていた戦争の大きな傷あとを夏休みの自由研究で調べてみると……。
1945年、終戦の年。
原爆投下の練習のため、模擬原爆・通称パンプキン爆弾が日本各地に49発も落とされていた事実を知っていますか?